

平成24年度の運営を振り返って

事務局 城南小学校

1 はじめに

大館市教育委員会が策定した第7次学力向上対策のもと、大館市教育研究会では、「確かな学力」を育て、「確かな授業力」を身に付けるために、授業研究の一層の充実と小・中連携の推進の2点を重点として運営してきた。

運営全般を通して感じたことは、各部会とも、熱心な世話人の部会運営のもと、積極的な研修が見られたことである。指導案検討会や交流授業の取組をもとに練り上げた質の高い授業や研究実践が提供され、会員一人一人の「子どもたちの力を高めたい」という思いが充実した研修の場を作っていた。

2 運営の概要

(1) 第1回総合研究会

- ・部員名簿は、例年のように教育研究所の協力により作成することができた。
- ・運営委員の協力により、教科外部会、全体会、教科部会とも支障なく進められた。
- ・各教科部会・教科外部会は、授業会場が輪番制となっているため円滑に進み、その分、テーマ検討や授業等交流、第2回総合研究会の持ち方等について時間をかけて協議することができた。

(2) 第2回総合研究会

- ・今年度も5日間の日程で小学校、中学校、教科外・小・中合同の各部会を開催した。
- ・各部会の内容は、授業研究会を中心に、持ち寄り資料によるテーマ研究、情報交換、実技研修、実演、講演会など、様々な研修が行われた。
- ・授業研究会では、ワークショップ形式の協議形態を取り入れた部会が多く、成果が報告されている。

(3) 授業等交流

- ・情報発信としては、各校の研究授業の一覧を事務局から、またその詳しい内容については各校から市内各小・中学校に配信した。
- ・授業等交流には各校の学校事情により希望通り参加できているわけではないが、よい研修の機会であると捉え、積極的に参加している先生が多い。

(4) 部会運営

- ・各部会とも、世話人の先生方の尽力により、充実した研修が行われた。
- ・3人の世話人の役割分担が明確にされていて、スムーズに運営された。

(5) 研究紀要

- ・2回の紀要編集委員会を開催し、内容の吟味・原稿依頼・校正作業を行い、第37号となる研究紀要「究」を発行できた。
- ・原稿の集約が滞らないように、原稿のお願いの文書を送付する時期に配慮した。

(6) 小・中連携の推進

- ・学区の児童生徒の実態を踏まえた内容の研修会が開催され、目指す児童生徒の姿を確認し、それに向けた実践が話し合われた。
- ・学区の実情に合わせて、児童生徒や教師の積極的な交流、共通実践の取り組みが進められた。

3 来年度に向けて

- (1) 今年度同様、授業会場校の輪番制の継続によりスムーズな部会運営を進めたい。なお、平成26年度からの小学校数の減少に伴い、新しいローテーションを早い時期に提示する。
- (2) 第2回総合研究会だけでなく、交流授業や指導案検討会など、研修の機会が増えるよう促していきたい。
- (3) 各部会の充実した研修のために、前年度の引き継ぎを効率的、効果的に行う手立てについて検討し進める。